



学校と家庭が連携して、道徳教育を推進していきたいと思えます。
学校で行った道徳の授業についてお知らせいたします。家庭で話し合ってもらいたいことをもとに、お子様といろいろな話をして下さい。
また、保護者の皆様の経験にもとづく話もできればとてもよいと思えます。
よろしくお願いいたします。

★資料名

「みつけてみよう」

★今回の道徳の授業のねらい

我が国や自分の暮らす町に親しみ、愛着を持って生活しようとする心情を育てます。

★お話のあらすじと学習内容

海が見えるとある町が描かれています。町の所々が「？」で隠されていて、そこに描かれているものをパズルをヒントに考えてみるという内容です。自分たちが住んでいる町にも、自慢してみたいものや、昔から伝わるものはないかなど、自分の町のよさ、素晴らしさに気付くようにしながら、ねらいに迫ります。

★子どもたちの授業の振り返り～ぼく・わたしのまちのよいところ～

【北川尻】

- ・子どものひろばで、みんなであそびます。
- ・すわじんしゃでおまつりをします。
- ・ぼくのいえの近くにカメがいる川があります。
- ・きたけという家があります。
- ・かよっていたほいくしゃがあります。

【免田】

- ・かわばた商店でおかいものをしたことがあります。
 - ・めんでんしゅうらくセンターがあります。
- ### 【山手】
- ・正友かいかんがあります。
 - ・じんじゃでラジオたいそうをしたよ。

★家庭で話し合ってもらいたいこと

幼稚園、保育所時代は、保護者による送り迎えなどが多く、自分ひとりで町を歩くという経験は乏しいようです。小学校に通学するようになって、行動範囲が広がるにつれ、町に対する興味も深まり、親しみもわいてくるようにはなりますが、まだまだ個人差は大きいといえます。まずは、生活科などの学習と関連付けて、自分の町を知り、愛着を持つようにしたいと考えます。

自分の住んでいる町や地域に親しみを持ち愛着を持てるように、「おつかい」「ごみ出し」「散歩」など、ちょっとした時間をつくり、地域の人々の生活とふれ合う機会を多くしていけるといいですね。

最近では子どもを狙った犯罪も多く、大人は危険というイメージがありますが、本来の子どもに向けられる温かいまなざしを地域の人々から感じる中で、地域に愛着を持ち、地域に根づいて生きる子どもたちを育てたいと願っています。